

日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 2011年
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com 5月11日

フラワーフェスティバルに合わせ 署名行動、842筆集まる一広島

広島市原水協は5月3日、原爆ドーム近くの元安橋で「核兵器全面禁止のアピール署名」を集めました。



市原水協と、県被団協・県原水協から23人が参加。市原水協の中本康雄筆頭代表理事、同金子秀典事務局長、県被団協の吉岡幸雄副理事長、県原水協の高橋信雄代表理事、古田文和事務局長、被爆2・3世の会の奥尾秀之事務局長がマイクを握り、一日も早い核兵器の全面禁止と、東日本大震災・東電福島原発事故の被災者への支援募金を訴えました。

平和公園周辺は、この日から始まった「フラワーフェスティバル」を目当てに訪れた観光客や市民で人通りがとて多く、家族連れや中高生のグループが積極的に署名に応じていました。

1時間半の行動で842筆の署名と22,768円の募金が寄せられました。

原発問題に関心高く 高校生も次々一群馬

群馬県では前橋原水協と伊勢崎原水協がそれぞれ5月8日と9日に6・9行動を行いました。

前橋原水協は、前橋駅南口で署名への協力を訴えたところ、日本人と結婚して在住しているアメリカ人女性が快諾し、名前はカタカナ、住所は漢字で署名。近くのショッピングモールに行く高校生、帰って来る女子高生など反応良く、福島原発事故への関心の高さもうかがえました。

1時間の行動には9人が参加し、94筆が寄せられました。

伊勢崎原水協はコープ宮子店前で行動し、3人で35筆を集めました。

新しい生き方が問われている

5月8日に行われた長崎県原水協総会での大矢正人代表理事(長崎総科大名誉教授)の挨拶を紹介します。

ことしの世界大会が、東日本大震災と原発事故、そして新しい署名をとりくむ中での大会ということ、非常に大きな意義のある大会であることを今日の講演を聞いて実感しました。日本で頑張ることが世界にも大きな影響を与えらると思う。

私がいま一番感じているのは、想定外はないということ。一番の危険は地球上に2万2600発もの核兵器があることだ。それが本当に使われることはないのか、事故によって暴発することはないのか、そういう危険性、人災の危険性はゼロではありえない。

福島原発事故によって新しい生き方が問われている、エネルギー消費を含めて私たちに問われている。その点で、核兵器のない世界というのはまさに新しい生き方の第一番目に挙げられるべきものではないかと思う。原水協の活動が本当に重要だと痛感します。